

【国語（書く領域）・小1・「しらせたいな、見せたいな」】①

育成を目指す資質・能力

(知識及び技能) 助詞の「は」「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎの使い方を理解して、文や文章の中で使うことができる。(1)才

(思、判、表等) 経験したことから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にできる。B(1)ア
(学びに向かう力、等) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

ICT活用のポイント

報告文を書く活動の情報を収集する場面で、写真編集機能と大型提示装置を活用することにより、情報収集のポイントを共有した。

【つかむ】

単元の課題を共有し、学習の見通しをもつ。

学校で見つけたものを伝えるために必要なことを集めて、家の人に知らせる文章を書こう。

【追究する】

伝えたい内容や相手に応じて必要な事柄を集め、報告文を書く。

【まとめる】

書いた文章を友達と読み合い、お互いのよいところを見付けて、学習を振り返る。

事例の概要

- 画像編集ソフトを活用して、写真から各自の伝えたい内容を可視化する。
- 学習支援ソフトを活用して、児童の伝えたい内容を共有することで、情報収集の観点を明確にしていく。

【事例におけるICT活用の場面①】

- 学校で見つけたものを家の人に伝えるために、児童の見るポイント（色、大きさ、形、手触り、匂い等）が伝えたい内容により違うため、写真編集機能を使ってそれぞれのポイントを画像に記入し、大型提示装置を使って発表する。

【事例におけるICT活用の場面②】

- 児童が作成した画像を学習支援ソフトを使って提出し、お互いの観点を見比べたり、教師が意図的に指名したりして、伝えたい内容とポイントの整合性を児童が共有できるようにする。

【国語（書く領域）・小1・「しらせたいな、見せたいな」】②

【事例におけるICT活用の場面①】



撮影した画像に伝えたいことを直接書き込むことで、書くこと消すことが容易になり、観点を共有した後も必要な事柄の修正や付け足しを行うことができた。修正前後の画像を提出させることで、児童の本時の学びを評価するための資料として活用していた。

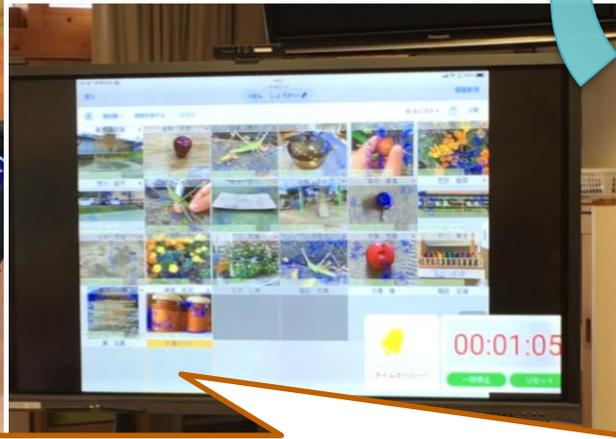
伝えたいものを撮影した画像に、気付いたことを直接書き込む。書き込んだ画像をもとにして、共有していく。



画像を基に発表する場面では、児童が伝えたい思いと気付いたことを結びつけて発表させることで、情報収集した内容が思いを伝えるのに適切だったかどうかについて検討することができ、情報収集のポイントとして共有した。

収集した内容を伝える時に、児童がポインター機能で場所を示しながら説明していた。

【事例におけるICT活用の場面②】



学習支援ソフトを使って、書き込んだ写真を教師に提出させ、あらかじめ児童の書き込みの内容を確認することが重要である。
作品をモデルとして共有すべきポイントを確認するための発表者の意図的指名につなげることや、児童の粘り強さを発揮させるための個別の支援に向けた実態把握を行うことができた。

学習支援ソフトを使って、書き込んだ写真を教師に提出させ確認することで、児童の作品をモデルとして提示し、共有したいことを確認することができる。

- 【活用したソフトや機能】
- ・学習支援ソフト
 - ・電子黒板
 - ・画像編集機能